

「うちなー」の緑内障

琉球大学眼科 澤口昭一教授

みなさんが日常で得る情報の内、実は90%近くが目から入って来る情報なのです（新聞、テレビ、雑誌など）。 外来で多くの患者様と接していると「先生、目が見えなくなるくらいならこの世に未練はありません」とか「家族の世話になるのは大変なので何とかしてください」とか、切実な訴えを日に何度か耳にします。

緑内障は神経が減って、最後は失明する病気ですから生活の質の低下、あるいは生きてゆくことそれ自体が困難となることがあります。 緑内障は目の固さ、眼圧とありますが、これが上昇することで視神経を圧迫し、次第に神経が減って行って最後には失明する重要な目の病気です。 ここ数年は日本における失明原因の常に第1位を占めていることが厚生省の視覚障害者の調査で分かっています。

緑内障にはゆっくりと慢性に進行していく開放隅角緑内障と、急激に眼圧が上昇し、神経がどんどん減って短い期間（例えば1週間程度）で失明につながる閉塞隅角緑内障の2つのタイプがあります。 緑内障の有病率は2000-2001年に多治見市で行われた疫学調査で40歳以上の成人の5%が罹っていることが明らかにされました。 この多治見スタディの結果から、日本では正常眼圧緑内障（開放隅角で慢性）が全緑内障の70%以上を占め、しかも緑内障患者の殆どは病院に通院していないことも明らかになりました。 つまり緑内障患者の殆どは失明に近づくまで自覚症状が無く、極端に言えば片目が失明して初めて病院に行くことが多いという結果でした。 注意するのはこのような場合、もう片方の見えていると患者さんが思っている目も緑内障としては末期であることが圧倒的に多いということです。

実は沖縄県は緑内障の有病率が本土の1.5倍程度と非常に多いことが分かってきました。 日本緑内障学会と琉球大学眼科教室の合同で2005-2006年に久米島で多治見と同様の疫学調査を行いました。 その結果、久米島では急速に悪化するタイプの閉塞隅角緑内障が非常に多く、その分だけ緑内障患者が多いという結果になりました。

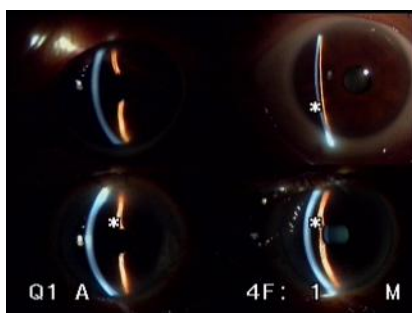
実際、久米島町ではこの閉塞隅角緑内障で両眼失明している人が3名いました。 久米島町は人口9000人ですから沖縄県全体ではこの閉塞隅角緑内障による失明者が約400人いることとなります。 またこの疫学調査の最中（約1年間）に2人の方が急性閉塞隅角緑内障を発症しました。 これを沖縄

県全体で考えると年間約200人程度の発症となります。 このように閉塞隅角緑内障は失明につながり易く、しかも沖縄県では頻度の高い緑内障だということが明らかになりました。

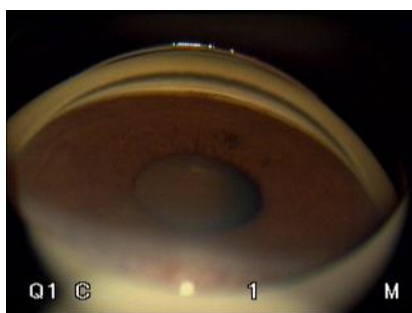
では閉塞隅角緑内障いったいどういう病気なのでしょうか。

目の中には房水という透明な水が循環しています。 この房水の出口を隅角といいます。この隅角が茶目（虹彩）によって塞がり、房水が目の中に溜まって眼圧が急激に上昇するのが閉塞隅角緑内障ということになります。 実はこの病気は女性が男性の2倍多く発症します。 また目に何も症状のない、あるいは眼科検査を受けても異常のない人がある日突然何の前触れもなく発症してしまうことがあります。

下の写真の解説；写真の光の線（スリット光という）と瞳の茶色（虹彩）の隙間を前房と言います。



左が深い前房 右は浅い例



隅角の写真 茶色の部分と白い部分（角膜とのつながりの部分）

この病気になりやすい傾向のある人も最近だんだん分かってきました。先程述べたように危険因子の1番目は女性です（男性の2倍発症）。2番目は高齢者です。実際に久米島での疫学調査ではこの閉塞隅角緑内障の患者は60歳以上になると急速に頻度が高くなっていくことが確認されました。3番目は遠視です。この病気になりやすい人は実は子供の頃から眼鏡を掛ける必要がない、視力の良い人たちなのです。子供の頃眼鏡を掛けてない人で目の

良さを自慢していた人で、40歳前後から老眼鏡が必要になった人が危険なのです。

4番目は家族歴です。この病気の患者の中にはかなりの人たちが家族、血縁者の中には緑内障で病院にかかっている人や失明した人がいると答えてくれます。沖縄は家族や親戚が集まる機会が多いので是非、皆様身内に緑内障患者がいるかいないかを確認してください。以上から50歳以上の女性、遠視、家族歴、がこの病気のキーワードなのです。心当たりの方は是非眼科を受診してください。

ではこの病気はどうやって治すのでしょうか。

閉塞隅角緑内障の治療は先程述べた隅角が閉塞しないようにすることです。特に急性の閉塞隅角緑内障は症状（眼痛、頭痛、吐き気、視力低下）がハッキリ出ますので急いで眼科を受診して下さい。このような急性閉塞隅角緑内障（急性発作といいます）は眼科の病院で眼圧を速やかに下げる治療を早急に行うことが大切です。また閉塞隅角緑内障の予備軍で、まだ発症していない人たちの中には予防的な治療の適応になる人がいますので、やはり一度眼科に受診されることをお勧めします。

またこの病気の患者様のなかの60歳以上で白内障のある方に対しては白内障の手術を勧める場合もあります。もともと目の中にある水晶体は厚さが4.5mm程度と厚いのですが、白内障手術で目に挿入する人工水晶体は1.5mm程度の厚みになります。これで閉塞隅角は開放隅角となり多くの患者さまでこの病気が完全に治ることがありますので、ここ最近はこの病気の治療として注目されて来ています。

緑内障と言われているのに白内障の手術を勧められたら、あなたの緑内障は殆どの場合、閉塞隅角緑内障だと考えてください。最後に40歳を過ぎたら毎年1回は目の病気があるかどうか眼科で検査を受けて、自分の眼を守るようにして下さい。

琉球大学眼科教室；<http://w3.u-ryukyu.ac.jp/ganka/>

日本緑内障学会；<http://www.ryokunaisho.jp/>